

特別出張講義

【 ものづくりのパラダイムが変化する時代、日本のものづくりの将来像を探る 】

10月16日(金) 場所 東京都立産業技術高等専門学校 品川キャンパス

講演概要

講師紹介

山崎 弘郎 : 略歴



- ・1956年 東大工学部応用物理学学科卒業、横河電機(株)入社 工学博士 東大工学部講師兼任、研究開発部長代理
- ・1974年 横河電機(株)退社
- ・1975年 東大教授就任 東大付属図書館長
- ・1993年 東大退官 名誉教授 横河電機(株)常務取締役 技術全般管掌 航空宇宙特機事業部、品質保証部門担当 (株)横河総合研究所代表取締役会長 歴任
- ・1997年 インドネシア国立バンドン工科大学技術アドバイザー (独)製品評価技術基盤機構
- ・現在 国立計測標準研究所評定委員会委員長 (公)大河内記念財団 常務理事
NPO 法人 新現役ネット 技術総合支援グループ(GSSG) 顧問

講義概況 (当グループからも4名参加しました)

1. 実施要領

- ・都立高専交流委員会』主催 2015年度 第一回 『中小企業家経営塾』にて講義
- ・東京中小企業家同友会(品川支部、大田支部)が東京都立産業高等専門学校に於いて高専生に4~6/回実施している起業家経営塾での社会人による講義。2012年以来 GSSG として運営や講義に参加支援している。
- ・授業の構成：講義 ⇒ 質疑 ⇒ グループ討議 ⇒ 纏め

2. 講義内容 (詳細は、レジメを参照ください)

- ・講義題目：ものづくりのパラダイムが変化する時代、日本のものづくりの将来像を探る
- ・構成
 - a)今までのものづくり (戦後日本のものづくりの変遷を四つの時代に区分)
 - b)これからのものづくり (世界に先駆けて新しい価値を永続的に提供するシステムを創造)
 - c)課題の克服
 - d)まとめ
- ・受講生
 - a)高専学生：45人(うち女学生2名) (因みに4学年160人(内女学生6人))
 - b)その他聴講参加：高専先生：3人 社会人：8人(内GSSGメンバー4人参加)
 - c)グループ構成：グループ討議は4~5人の学生グループ10チームとし、先生、社会人が各グループにアドバイザーとして参加)
 - d)討議テーマ：自動化が進み 機械の能力が人間の能力を上回った時人間はどのように考えていくのか？ 自動車の自動運転技術が発達してきた場合、自動運転時に事故が発生した場合、その責任の所在は何処にあるのか？

講義の様子



グループ討議



質疑応答



グループ討議

当グループから参加された方からの一言を紹介します

- ・ 日常生活のエネルギーの大半は、不具合による対策に費やされていることも事実です。工業高校、大学を通して、現物の維持管理の講義は一度もなかったように記憶しております。環境保全は美しいはやり言葉が、機械設備の営繕保守は学問にさえなっていないのかもしれませんが。
- ・ グループ討議の時間は30分程度でグループが4人前後というのは適当であり、討議では全員(学生)が発言していました。担当教師が課題を2つ提示してグループ討議を進めることは大変結構だと思いました。
- ・ 講師の纏め『学生への期待として、如何にパラダイムシフトが起ころうとも、急激な変化が起こっても 対応していくためには常々基礎力を養っておくことが肝要』は印象的でした。